

令和 6 年 1 0 月 3 1 日

川西市議会議長 岡 留美 様

会派（呼称）名 連合かわにし市民の会

議 員 名 中井 成郷

議員名欄は署名又は記名

管 外 調 査 報 告 書

このたび、管外調査をいたしましたので、その概要を下記のとおりお届けいたします。

記

1 調査者氏名

福西勝・川北将・中井成郷・岡留美

2 調 査 先

富山県高岡市

3 調 査 期 間

令和 6 年 1 0 月 1 8 日

4 調査結果の概要

別途資料添付

## 【会派管外調査 調査概要】

### 1. 富山県高岡市

- (1) 日 時 2024年10月18日(金)午後1時～午後3時頃
- (2) 調査先 高岡市役所(富山県高岡市広小路)
- (3) 調査目的 高岡スポーツコア・イベント広場の夜間照明の設置及び人工芝改修工事について  
市立小・中学校グラウンドの夜間照明施設の利用等について

#### (4) 応 対 者

歓迎挨拶 高岡市議会議長 本田 利麻 氏

説明等 高岡市教育委員会事務局 生涯学習・スポーツ課

課長 澤田 剛章 氏

副課長 石井 圭 氏

高岡市議会事務局 議事調査課 調査係 主任 堀 泰平 氏

#### (5) 事前質問に対する説明

市民スポーツ活動の状況について

市民のスポーツ実施率 48.6%

(週5日～1日以上実施の合計:令和4年度市民の運動・スポーツに関する実態調査報告書)

スポーツ施設利用者推移

平成28年 826,174人/年 ピーク

令和4年 579,217人/年 減少している

(令和4年度市民の運動・スポーツに関する実態調査報告書)

学校開放利用者数推移

平成19年 457,987人/年

令和4年 228,765人/年 半数程度に減少している

(令和4年度市民の運動・スポーツに関する実態調査報告書)

学校体育施設開放事業

小学校体育館 21館 小学校グラウンド 20校 (内、夜間照明設置 4校)

中学校体育館 11館 中学校グラウンド 11校 (内、夜間照明設置 10校)

義務教育学校体育館 2館 // グラウンド 1校 (内、夜間照明設置 1校)

高岡市の競技団体登録者推移

平成22年 13,778人  
令和4年 8,824人 減少傾向  
(公益財団法人高岡市スポーツ協会資料)

#### スポーツ少年団登録状況

平成18年 2,107人 約21.6%が加入  
令和5年 1,176人 人口比約16.5% 減少している  
(公益財団法人高岡市スポーツ協会資料)

#### 中学校の運動部活動加入状況

平成18年 3,647人/年 (4,752人中の76.7%)  
令和4年 2,636人/年 (3,787人中の69.6%)  
生徒数そのものが減少する中、加入割合も減少傾向にある  
(高岡市教育委員会資料)

登録団体は通年で、体育施設を利用する。1団体、週3～4回、施設利用が可能。  
予約率は高いが利用者数は少ない。固定者が頻繁に施設を利用しているのが現状。

#### 高岡スポーツコアについて

高岡駅南地区の11.4ヘクタールの敷地に平成6年に整備  
指定管理者 公益財団法人高岡市スポーツ協会  
指定管理料 24,368千円(令和6年度)

#### サッカー・ラグビー場 観客スタンド(3,000席)

夜間照明がある競技場であり、一般利用の他、県高校サッカー・ラグビー場サッカー決勝、天皇杯予選等の大きな大会が開催可能。

【令和5年度】

利用者数 20,010人 利用料収入 約756千円 稼働日数 約150日  
グラウンド面積 13,552m<sup>2</sup> 収容人員 3千人

#### 天然芝テニスコート 収容人員 2千人

16面(全天候型) 夜間照明有は県内有数の規模  
一般利用の他、北信越大会や県大会開催等で多くの方に利用されている。

【令和5年度】

利用者数 48,787人 利用料収入 約9,614千円 稼働日数 約260日

#### イベント広場 面積 9,840m<sup>2</sup>

気軽に使える場所として、サッカー大会やイベントが開催されている。現在、人工芝工事中。

【令和5年度】

利用者数 9,861人 利用料収入 約292千円 稼働日数 約150日

多目的グラウンド 面積 16,000m<sup>2</sup>

ソフトボール、グラウンドゴルフでの利用や、消防訓練会場やスポーツコアの臨時駐車場等、幅広く利用されている。

【令和5年度】

利用者数 10,194人 利用料無料 稼働日数 約260日

夜間照明及び人工芝改修の経緯について

サッカー・ラグビー場 平成6年整備以降、大規模な修繕を行っていない(未だ手が付けられていない状況)

天然芝テニスコート 前回、人工芝を張り替えから15年以上経過。照明設備老朽化及び、脱酸素の取り組み。

イベント広場 天然芝維持管理、夜間照明設備が無く、施設稼働日(時間)が少ない。

天然芝コート2面のデメリット

芝生養生、冬期休業のため、施設稼働日が少ない。年間152日。

芝生の維持管理費が高額。(芝刈り、散水、除草剤・肥料散布等々)

これらを解消するため、施設の改修を検討。

人工芝のメリット

施設の稼働日が大幅に増える。152日→261日(年間約3,000千円)

芝生の維持管理費の削減。

夜間照明設備設置のメリット

施設稼働時間の増加 9時～18時→(案)9時～21時

近隣の人工芝施設では、平日夜間においても9割程度の高稼働率となっている(悪天候除く)

↓

「年間(冬期を除く)を通して、夜間利用が可能」

人工芝化のデメリット

身体的な負担があると言われていて、一般的には天然芝環境の方が良いとされている。

→人工芝化改修では、人工芝の下に衝撃吸収のための「アンダーパッド」の設置や、充填剤(人工芝の中に天然素材が使われている粒を入れる)を導入。天然素材の導入は県内初。天然素材のメリット＝より天然芝に近い使用感。夏場の温度抑制。

#### 夜間照明設置工事について

工事費 77,000千円

一般財源 46,000千円

日本サッカー協会施設整備助成金 15,000千円

toto助成金 16,000千円

工事期間 令和5年9月～令和6年3月(実施済)

工事内容 照明柱 6柱(投光器 全48台)

#### 人工芝設置工事について

工事費 295,900千円(税込)

一般財源 212,500千円

日本サッカー協会施設整備助成金 45,000千円

toto助成金 38,400千円

工事期間 令和6年7月～令和7年2月

工事内容 人工芝舗装 9,680㎡ 表層工 9,680㎡  
暗渠排水工 1,760㎡ 防球ネット

#### 学校体育施設開放事業について

学校体育施設の開放事業は、高岡市における社会体育の振興及び普及を目的に、学校教育活動に支障の無い範囲で、高岡市が設置する小・中・義務教育学校の施設を市民に開放する事業。

#### 夜間照明設置の考え方

昭和58年～63年にかけて、中学校に夜間照明を設置。

校区内の小学校には照明を設置しない(一部例外あり)

小学校は利用者により設置。

地域住民からの強い要望により市が補助金を出した例がある。

#### (6)説明と質疑応答

Q:人工芝と照明で3時間、長く施設利用が可能となったことで、少量収入は増加したのか

A:料金設定は、これから検討することになっている。

Q:小学校施設の利用料が低額のは、面積が狭いからか?

A:平成14年～15年頃に照明を設置した際の条例で決まった。小学生が使うことが多いからかとも思うが、設置当時の資料が残っておらず、詳細は不明。

Q:野球利用等の場合、小学校施設も、全面利用が可能な照度が確保されているか。

A:外野に相当する部分は、照度が低く暗い。

Q:近隣住民の理解はどう得たのか。

A:設置時の記録がなく、詳細は不明。

Q:利用時のチケットはまとめて購入出来るか。コイン式の料金収受が利便性が高く  
楽か？

A:コインはまとめて購入する人が多い。コイン式はやりやすいが、収受に必要な分  
電盤等が老朽化し錆びているので、昨年末100万円ほどかけて修繕をした。電柱に  
ヒビが入っており、照明部分のカラスの巣の撤去にも年6～70万程度(市内全域)  
必要となる。ハロゲンライトが今後、製造中止になるとLEDに機器を変更する必要  
があるが、かなりの高額となる。今後の維持管理、更新等が大きな課題。

『調査から感じたこと』

「体育館は昭和35年頃に建設され、令和10年頃には耐用年数を迎え、維持管理  
費が増大する。

人口減少で、今後は、市の歳入も減少する。既存施設をどうするか、学校の統廃  
合も今後、課題となってくる。スポーツ施設のあり方をこれから検討していくこと  
になる。現在、無料開放をしている施設にも、受益者負担の考え方を取り入れる必要  
が出てくると考える。近隣市町も有料化に向けて動いており、今後は有料化も検討  
していくことになる。」と、担当課より説明を受けたが、これは、全国、いずれの基礎  
自治体でも同様の課題と考える。

川西市は令和8年度中に、中学校部活動の社会(地域)移行を完全実施する予定  
だが、それには、指導体制の整備、指導者層の確保、保護者の財政負担の課題解  
決、生徒が安全、安心に参加できる環境整備、地域の理解等々の他、施設整備も大  
きな課題となる。

生徒が授業終了後、学校から部活の活動地へ移動し、その後、部活を開始し、従  
前と同様の活動内容を確保するためには、終了時刻の延長もあり得る。充実した活  
動環境を確保するためにも、夜間利用可能な照明施設が市内にほぼ無い現状は大  
きな課題。

については、先進地に学ぶため、今回、視察調査を行ったが、メリット、デメリットに  
ついて詳細に把握することができ、現地調査も行えて、当市の今後活かせる調査  
となったと考える。

(文責 岡 留美)